

テーマ：消費者と企業の対話から～消費者市民社会と消費者志向経営の実現に向けて～

日時：2017年9月8日(金) 10:50～12:20

場所：キャンパスプラザ京都 4階 第4会議室

参加者：同志社大学、立命館大学、早稲田大学 大学生 30名

主催：公益財団法人大学コンソーシアム京都

同志社大学 青木真美教授、コンシューマーズ京都 原強理事長

関西支部会員の川口徳子が講義を行いました。

<講義内容>

日本ヒューブ協議会とは

1. 生活者と企業のギャップ

- ・突沸とは、生活力アップのための基本5カ条
- ・ひとり暮らしの若者へのアドバイス「情報カード」

2. 消費者市民社会とは「お客様の声を活かした取り組み事例」

3. 消費者志向経営とは

- ・商品開発の流れで考える：商品開発フロー例、開発秘話「石窯工房」
- ・商品改善の流れで考える：お客様の声を分析して改善・開発に活用、改善事例「中華名菜」

4. ニッポンハムグループのコミュニケーションの機会づくり

質疑応答、アンケート



☆いただいた感想のご紹介☆

<講義はいかがでしたか？>

- ・企業側の取り組みや消費者目線の経営であることが、とても伝わって来ました。企業側が消費者とのコミュニケーションを取ろうとしている中で、消費者ももっとより良い社会に向けて、企業と密にコミュニケーションを取っていきべきだと思った。
- ・実際利用する食品のパッケージや容器がリニューアルされているのを目にするが、その度に自分が使ってみて思うのは、すごく便利になったとか使いやすいということ。今日の講義を聞いて、顧客の意見を大事にしている企業は良い企業だと感じた。
- ・「お客様の声」に応えるために、企業の努力を知り、感銘を受けた。日常で触れる商品に様々な配慮が施されていることを知り、驚いた。

<「消費者市民社会」「消費者志向経営」に対して、一人の消費者として、どう行動すべきか？自分に何が出来るか？ その他>

- ・実際に消費者の声で企業に影響を与えた例を学び、事業者と消費者が向き合って対話することがとても大切であると解りました。
- ・意見やニーズはしっかりと伝える(発信する)必要があると感じた。それがないと、製品も会社も社会も良くならないのではないかと感じた。
- ・一消費者として、この商品はどういう工夫がなされているのか、気付けるようになりたいと感じた。商品の工夫に気付くことが出来れば、より良い商品、環境に優しい商品を選べるようになる。
- ・私自身の就職先も消費者の意見を大切にする企業という基準で選びたいと思いました。